

夏焼き～火入れ

1. 実施日時 令和6年8月18日（日） 7：20～14：30
2. 実施場所 仁多郡奥出雲町佐白・ダムに見える牧場林地
（佐白547,1451-1番地等）
3. 参加者数 火入れ従事者5名
※参加者住所地（雲南市、出雲市、松江市）
4. 概要 10時10分着火、12時40分延焼終了、13時30分鎮火。
晴れ、最高34℃、湿度不明、風0～1m（着火時0m）。
火入れ面積約2アール。
5. 今後の予定
●播種（根菜中心）、間引き、草刈り、収穫等栽培管理。ならびに周辺部の植生管理。

6. 状況写真

▼左は前日撮影。降雨なく連日の猛暑日。7/24に6ミリ、8/13に3ミリが大東で記録されているのみ。準備段階で竹の伏込は斜面下方から進めたが、後半は厚みを薄め、様子を見ながら上方から追加投入する目論見をもって火入れに臨んだ。

当日は着火30分前に、斜面上方と横5～10m域に事前放水を約500リットルぶん実施。上方に背負式水嚢を2ヶ所各2ヶ配置。

無風であったが通常風下側となる上部から着火。10分ほどで延焼開始（右）。



▼およそ1時間経過後（左11時1分）、延焼速度が遅いため、竹材を上部から追加投入開始。火勢が増し、火炎発生面積が拡大した。飛火も増えてきたため、背負式水嚢による消火に注力する（右11時28分）。



▼12時前より再び竹材の追加投入を始めた。延焼が全体の中ほどに達する12時半くらいには、伏せてある竹材量が増す地点にも到達し、火勢が強延焼速度も一気にました(左12時37分)。その10分前には延焼末端3ヶ所から迎え火を打っているが、延焼火勢におされて効果はなかった。右写真12時44分。



▼延焼末端に竹を多く積んでいたため、延焼終了後の火まわしもほぼすることなく、鎮火まで進んだ。写真13時1分。右写真13時20分。



7. その他 (経過と次回へ向けて検討事項等)

●緩斜面での火勢

・火入れ数日前に想定していたよりも開始当初の火勢はおだやかだった。緩斜面での火勢は基本おだやかで、コントロールしやすいが、積みが浅すぎると火回し(材の寄せなど)に苦勞することとなる。今回は斜面上部の積みがやや浅く、リスクを考慮すればちょうどよい加減であった。今回の材はほぼ竹であり、竹は難燃と易燃の差が僅かであることから、次回以降に活かしていく。

●時間経過

- 7:20 先発着。500リットルの取水とタンクへの追加給水等準備。
- 8:00 参加者順次着。装備を山へ運搬開始。
エンジンポンプ・ホースの配置とテスト兼ねた事前放水。(エンジンポンプは高圧型1台、軽量2台。軽量1台は麓からの揚水に使用后、上にあげ予備とした。1200リットルタンク1基+500リットルタンク1基。エンジンポンプ2台をもつての運用。背負式水囊による初期消火に力点を置くもの)
- 10:10 着火。
以下、写真状況の説明をもってかえる。
- 13:30 撤収開始
- 14:10 鎮火確認、現場退去
- 14:30 現場状況視認後、完全撤収

†. 令和6年度竹の焼畑事業は「出雲の山墾り～竹の焼畑2024」と呼称。奥出雲山村塾、島根大学里山焼かかんかね?、森と畑と牛と、ダムに見える牧場が主要主体となって取り組んでいる事業です。